

講義要綱

SYLLABUS

2022年度

柔整科

3

年

【専門基礎分野】

解剖学特論Ⅰ
解剖学特論Ⅱ
生理学特論Ⅰ
生理学特論Ⅱ
病理学概論Ⅱ
一般臨床医学Ⅲ
一般臨床医学Ⅳ
外科学概論Ⅱ
衛生学Ⅱ
リハビリテーション医学Ⅱ
臨床外傷学
関係法規
柔道Ⅳ
社会保障制度

【専門分野】

柔道整復特論Ⅰ
柔道整復特論Ⅱ
画像評価学
柔整脱臼軟損実技Ⅲ
柔整総合実技Ⅰ
柔整総合実技Ⅱ
柔整総合実技Ⅲ
臨床実習Ⅳ



学校法人エイジェック学園
スポーツ健康医療専門学校

[授業科目]

解剖学特論Ⅰ**3学年**

[基本情報]

担当教員	木原 和彦		単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が、柔道整復師の国家試験の傾向に基づき必要な解剖学（概説から脈管系）において、必要な知識を修得することを目的とする科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、前期卒業単位認定試験の受験は認めない。
前期卒業単位認定試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

全国柔道整復学校協会監修教科書 解剖学第2版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	人体解剖学概説；細胞および組織、到達度確認	講義
2回	人体解剖学概説；組織、発生、体表の区分、到達度確認	講義
3回	人体解剖学概説（予備） 運動器系；骨格器（総論、脊柱）	講義
4回	運動器系；骨格器（総論、脊柱）、到達度確認	講義
5回	運動器系；骨格器（上肢）、到達度確認	講義
6回	運動器系；骨格器（下肢）、到達度確認	講義
7回	運動器系；骨格器（頭蓋）	講義
8回	運動器系；骨格器の到達度確認	講義
9回	運動器系；筋系（頭頸部）、到達度確認	講義
10回	運動器系；筋系（胸部、腹部）、到達度確認	講義
11回	運動器系；筋系（背部）、到達度確認	講義
12回	運動器系；筋系（上肢）、到達度確認	講義
13回	運動器系；筋系（下肢）、到達度確認	講義
14回	脈管系；総論	講義
15回	脈管系；血管系、心臓、到達度確認	講義
16回	脈管系；動脈（頭頸部）、到達度確認	講義
17回	脈管系；動脈（上肢、胸腹部）、到達度確認	講義
18回	脈管系；動脈編（下肢、静脈総論）、到達度確認	講義
19回	脈管系；静脈系、到達度確認	講義
20回	脈管系；胎児循環、リンパ系、到達度確認	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学特論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	木原 和彦		単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習経験のある教員が、国家試験野の傾向に基づき柔道整復師に必要な解剖学（内臓系から体表解剖）において、必要な知識を修得することを目的とする科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。

卒業試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

全国柔道整復学校協会監修教科書 解剖学第2版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	消化器系	（概要、口腔～食道）	講義
2回	消化器系	（胃～大腸）	講義
3回	消化器系	（肝臓、膵臓）	講義
4回	消化器系	到達度確認	講義
5回	呼吸器系	（鼻腔、喉頭）	講義
6回	呼吸器系	（気管、肺） 到達度確認	講義
7回	泌尿器系	腎臓	講義
8回	泌尿器系	尿路 到達度確認	講義
9回	生殖器系	男性	講義
10回	生殖器系	女性	講義
11回	生殖器系	到達度確認	講義
12回	内分泌器系	到達度確認	講義
13回	神経系	（神経系の基礎、中枢神経；脳）	講義
14回	神経系	（中枢神経；脳）	講義
15回	神経系	（中枢神経；脊髄、伝導路）	講義
16回	神経系	（末梢神経；脳神経）	講義
17回	神経系	（末梢神経；脊髄神経）	講義
18回	神経系	（自律神経）、到達度確認	講義
19回	感覚器系	目、外皮	講義
20回	感覚器系	聴覚、平衡器	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学特論Ⅰ

3学年

[基本情報]

担当教員	神長 まどか		単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、細胞、血液、循環、呼吸、消化、栄養、体温、排泄の機能について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める。特論Ⅰでは生理学の基礎、神経、筋、感覚、体液と血液、循環、呼吸について学び、施術の際に説明でき、国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、前期単位認定試験の受験は認めない。

小テスト（2回の小テストの平均点、満点は20点）と単位認定試験（80点満点）の合計100点満点中、60点以上を合格とする。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

[教科書]

[参考書]

生理学（全国柔道整復学校協会）改訂第3版

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

必ず復習をすること。予習は必要ありません。その週に行われた授業内容の復習をすること、即ち自主学習をすることが国家試験合格のためには必須です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生理学とは①	講義
2回	生理学とは②	講義
3回	筋の生理①	講義
4回	筋の生理②	講義
5回	筋の生理③、神経の生理①	講義
6回	神経の生理②	講義
7回	神経の生理③	講義
8回	神経の生理④、運動の生理①	講義
9回	運動の生理②	講義
10回	運動の生理③	講義
11回	感覚の生理①	講義
12回	感覚の生理②	講義
13回	感覚の生理③、内分泌①	講義
14回	内分泌②	講義
15回	内分泌③	講義
16回	生殖①	講義
17回	生殖②	講義
18回	骨の生理①	講義
19回	骨の生理②	講義
20回	全体のまとめと解説	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学特論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	神長 まどか		単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、内分泌、神経、筋肉、感覚器の機能について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌、生殖、骨の生理学について学び、施術の際に説明でき、国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。卒業試験において6割以上を合格とする。試験範囲は生理学特論Ⅰで履修した範囲も含めることとする。

[教科書]

[参考書]

生理学（全国柔道整復学校協会）改訂第3版

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』，南江堂。

[履修の条件・留意点]

必ず復習をすること。学内試験や国家試験の過去問等，問題を解く機会が増えてきますが，やりっぱなしでは意味がないので，しっかりと復習してください。その積み重ねが国家試験合格へと繋がります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	血液①	講義
2回	血液②	講義
3回	血液③，循環①	講義
4回	循環②	講義
5回	循環③	講義
6回	呼吸の生理①	講義
7回	呼吸の生理②	講義
8回	呼吸の生理③，尿の生成と排泄①	講義
9回	尿の生成と排泄②	講義
10回	尿の生成と排泄③	講義
11回	栄養と代謝①	講義
12回	栄養と代謝②，消化と吸収①	講義
13回	消化と吸収②	講義
14回	消化と吸収③，体温とその調節①	講義
15回	体温とその調節②	講義
16回	高齢者の生理学的特徴・変化 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	講義
17回	問題演習①（練習問題①）	講義
18回	問題演習②（練習問題②）	講義
19回	問題演習③（第27・28回国試復習）	講義
20回	問題演習④（第29・30回国試復習）	講義

[授業科目]

病理学概論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	最上 真理子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験を積んだ医師が、疾病や老化の病理学的変化について形態的側面から理解を深めることを指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

疾患の成り立ちを病因と形態学的観点から理解する。身体機能の低下や成因を解析し、機能の回復を促進するための知識を習得する。

[評価方法]

単位認定は卒業認定試験にて判定する。

[教科書]

[参考書]

病理学概論（医歯薬出版）	
--------------	--

[履修の条件・留意点]

遅刻と私語をしないこと。机上に食物を置かないこと。授業中にレポートを作成して提出すること。返却されたレポートは配布資料と共にファイルに綴じて保存すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生体防御機構と免疫、自然免疫、獲得免疫	講義
2回	液性免疫、細胞性免疫、サイトカイン	講義
3回	免疫不全	講義
4回	自己免疫疾患	講義
5回	アレルギーの分類	講義
6回	アレルギー性疾患	講義
7回	腫瘍の定義、腫瘍の細胞生物学	講義
8回	腫瘍の発育段階、発癌のメカニズム	講義
9回	腫瘍の分類	講義
10回	主要な癌と肉腫	講義
11回	先天異常	講義
12回	染色体異常	講義
13回	遺伝子異常	講義
14回	栄養障害	講義
15回	感染症（細菌）	講義
16回	感染症（ウイルス）	講義
17回	損傷	講義
18回	運動器の病理	講義
19回	復習	講義
20回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

一般臨床医学Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	初鹿 達朗	単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療従事者が最低限学習しておくべき基本的な疾患の概念・症状・治療法などを、臨床経験のある医師が指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。具体的には代謝疾患、内分泌疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、感染症、膠原病などを学び、臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験の正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学 改訂第3版 (医歯薬出版株式会社)

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	D 代謝疾患	講義
2回	E 内分泌疾患①	講義
3回	E 内分泌疾患②	講義
4回	F 血液・造血器疾患①	講義
5回	F 血液・造血器疾患②	講義
6回	G 腎・尿路疾患①	講義
7回	G 腎・尿路疾患②	講義
8回	H 神経疾患①	講義
9回	H 神経疾患②	講義
10回	H 神経疾患③	講義
11回	H 神経疾患④	講義
12回	H 神経疾患⑤	講義
13回	I 感染症①	講義
14回	I 感染症②	講義
15回	J リウマチ・膠原病①	講義
16回	J リウマチ・膠原病②	講義
17回	J リウマチ・膠原病③	講義
18回	前期のまとめ	講義
19回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義
20回	単位認定試験の解説	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅳ

3学年

[基本情報]

担当教員	初鹿 達朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療従事者が最低限学習しておくべき基本的な疾患の概念・症状・治療法などを、臨床経験のある医師が指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。また、今まで学んだ内容を復習し、国家試験でも対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。
卒業試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学 改訂第3版 (医歯薬出版株式会社)

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	A 呼吸器疾患のまとめ	講義
2回	B 循環器疾患のまとめ①	講義
3回	B 循環器疾患のまとめ②	講義
4回	C 消化器疾患のまとめ①	講義
5回	C 消化器疾患のまとめ②	講義
6回	D 代謝疾患のまとめ	講義
7回	E 内分泌疾患のまとめ	講義
8回	F 血液・造血管器疾患のまとめ	講義
9回	G 腎・尿路疾患のまとめ	講義
10回	H 神経疾患のまとめ①	講義
11回	H 神経疾患のまとめ②	講義
12回	I 感染症のまとめ	講義
13回	J リウマチ・膠原病のまとめ	講義
14回	国家試験過去問演習①	講義
15回	国家試験過去問演習②	講義
16回	国家試験過去問演習③	講義
17回	国家試験過去問演習④	講義
18回	国家試験過去問演習⑤	講義
19回	国家試験過去問演習⑥	講義
20回	卒業試験の解説	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 疾病と傷害

[授業科目]

外科学概論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	宮川 哲平俊山 聖史		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験のある医師が、外科学の基礎となる総論事項と、臨床現場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患についての知識を身に着けるよう指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師は、主に整形外科学の学問との関わりが強いと思われる。整形外科学は人体の骨・関節・筋肉等の運動器系を診療研究する「外科学」の一分野である。その「外科学」の基礎となる総論的な事項とともに、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患について知識等を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は卒業認定試験にて判定する。

[教科書]

[参考書]

外科学概論

[履修の条件・留意点]

国家試験で問われることが多いところを中心に、授業中に説明します。下記の教科書に準じて授業を進めます。他科目を含め覚えることが多いので、外科学概論については授業中になるべく頭に入れるようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション・損傷	講義
2回	炎症と外科感染症	講義
3回	腫瘍	講義
4回	ショック・心肺蘇生法	講義
5回	輸血・輸液	講義
6回	消毒と滅菌	講義
7回	手術・麻酔	講義
8回	移植と免疫	講義
9回	出血と止血	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科疾患	講義
12回	甲状腺・頸部疾患	講義
13回	胸壁・呼吸器疾患	講義
14回	心臓・脈管疾患	講義
15回	乳腺疾患	講義
16回	腹部外科疾患	講義
17回	総復習①	講義
18回	総復習②	講義
19回	総復習③	講義
20回	総復習④	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 疾病と傷害

[授業科目]

衛生学Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	最上 紀美子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	博士号を持つ薬剤師が、公衆衛生活動の講演の経験を活かし、公衆衛生活動の基礎となる知識について理解を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

地域医療を担う存在である柔道整復師は、地域の公衆衛生活動の推進者となることが期待されている。本講義では柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学の知識を学習する。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。
単位認定は2022年1月29日に実施する卒業認定試験にて判定する。

[教科書]

[参考書]

衛生学・公衆衛生学改訂第6版

[履修の条件・留意点]

遅刻、欠席の取り扱いについては学則どおりとします。
授業で配布したプリントは保存するようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	健康の概念	健康の定義、衛生統計	講義
2回	疾病予防と健康管理	疾病予防の段階	講義
3回	感染症の予防	感染と発病、病原体	講義
4回	感染症の予防	免疫、予防接種	講義
5回	消毒	消毒法一般、種類と方法	講義
6回	環境衛生（環境保健）	環境と適応、環境と健康	講義
7回	環境衛生（環境保健）	公害、環境問題	講義
8回	生活環境・食品衛生活動	上水・下水、住居・衣服と健康	講義
9回	生活環境・食品衛生活動	食品衛生、廃棄物	講義
10回	母子保健	母子保健、母子保健指標、母子保健対策	講義
11回	学校保健	学齢期の健康状況、学校における保健活動	講義
12回	産業保健	職業病、労働災害、産業保健対策	講義
13回	成人・高齢者保健	成人・高齢者の健康状況、生活習慣病	講義
14回	精神保健	精神の病気、精神障害者の対策	講義
15回	地域保健と国際保健	地域保健活動、国際保健組織	講義
16回	衛生行政と保健医療の制度	保健所の業務、医療・福祉制度	講義
17回	医療の倫理と安全の確保	医療の倫理、医療安全の確保	講義
18回	疫学	疫学指標、疫学研究の種類	講義
19回	まとめ	国家試験対策	講義
20回	まとめ	国家試験対策	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 疾病と傷害

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	田中 順一郎	単位数	2	時間数	40
実務/資格	専門学校で指導経験のある教員が、リハビリテーションについて理解を深めるために、リハビリテーションの概念および関連職種、疾患別リハビリテーション、関連法について指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

患者がもつ障害に対する理解を深めると同時に、国家試験に向け知識を整理・吸収し、リハビリテーションの基礎について学ぶ。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修：リハビリテーション医学 改訂第4版	授業毎にプリントを配布する
---	---------------

[履修の条件・留意点]

復習を欠かさないこと。教科書を読んでくることが望ましい。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中、携帯電話の電源はオフにし、飲食物は机上に置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーション医学と関連職種	講義
2回	リハビリテーション治療技術（理学療法）	講義
3回	リハビリテーション治療技術（物理療法）	講義
4回	リハビリテーション治療技術（作業療法、言語聴覚療法）	講義
5回	補装具①（装具）	講義
6回	補装具②（切断と義肢、移動補助具、自助具）	講義
7回	高齢者のリハビリテーション①	講義
8回	高齢者のリハビリテーション②	講義
9回	脳卒中①	講義
10回	脳卒中②	講義
11回	骨粗鬆症	講義
12回	関節リウマチ	講義
13回	脊髄損傷	講義
14回	小児疾患とリハビリテーション	講義
15回	内部障害のリハビリテーション	講義
16回	頸肩腕症候群の病態とアプローチ	講義
17回	腰痛症の病態とアプローチ	講義
18回	リハビリテーションと福祉、障害者スポーツ	講義
19回	模擬試験と解答・解説	講義
20回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

2022年度 [分野] 専門基礎 / 柔道整復術の適応

[授業科目]

臨床外傷学

3学年

[基本情報]

担当教員	最上 真理子		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験を積んだ医師が、医療者に求められる臨床現場での外傷学の基本を理解するよう指導する科目である。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師の業務範囲か否か、適切な判断ができる知識を身に付ける。柔道整復術の限界はどこまでかを理解し、業務範囲外のものに対しても、適切な対応ができる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。
卒業試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

整形外科学（改正4版）、医療の中の柔道整復

標準整形外科学（第14版）

[履修の条件・留意点]

1) 特別の理由がない遅刻は出席と認めない。2) 講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。3) 学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	疾患別各論 ⑥神経麻痺と絞扼性神経障害	講義
2回	疾患別各論 ⑦腕神経叢麻痺・分娩麻痺、全身性神経・筋疾患⑧脊髄腫瘍、脊髄損傷	講義
3回	身体部位別各論 ①頸部 ②胸部	講義
4回	身体部位別各論 ③腰部	講義
5回	身体部位別各論 ④肩関節・肩甲帯	講義
6回	身体部位別各論 ⑤上腕・肘関節	講義
7回	身体部位別各論 ⑥前腕・手関節	講義
8回	身体部位別各論 ⑦手・手指	講義
9回	身体部位別各論 ⑧骨盤・股関節	講義
10回	身体部位別各論 ⑨大腿・膝関節	講義
11回	身体部位別各論 ⑩下腿・足関節	講義
12回	身体部位別各論 ⑪足・足趾	講義
13回	1 柔道整復術の適否を考える 2 損傷に類似した症状を示す疾患①	講義
14回	2 損傷に類似した症状を示す疾患②	講義
15回	3 血流障害を伴う損傷 4 末梢神経損傷を伴う損傷	講義
16回	5 脱臼骨折 6 外出血を伴う損傷	講義
17回	7 病的骨折及び脱臼 8 意識障害を伴う損傷	講義
18回	9 脊髄症状のある損傷 10 呼吸運動障害を伴う損傷	講義
19回	11 内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
20回	12 高エネルギー外傷	講義

[授業科目]

関係法規

3学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験をもつ柔道整復師が、柔道整復師等の法律を学ぶ科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師として業務に従事するうえで必要な法令を理解する。柔道整復師法、及びその他の医療福祉法規を学び、法令の中で適切な施術ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験を認めない。
単位認定試験において60点以上の場合を合格とする。

[教科書]

[参考書]

関係法規 2022年版 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の復習をしっかりと行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
- ・パソコンやタブレット等の使用は許可を得ることで使用可能とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	序論：法の意義、インフォームドコンセント、医療過誤とリスクマネジメント	講義
2回	柔道整復師法とその関連内容：第一章 総則	講義
3回	第二章：免許	講義
4回	第三章：柔道整復師国家試験	講義
5回	第四章：業務	講義
6回	第五章：施術所	講義
7回	第六章：雑則	講義
8回	第七章：罰則	講義
9回	第八章：指定登録機関及び指定試験期間 第九章：附則	講義
10回	医療従事者の関係法規	講義
11回	医療法	講義
12回	社会福祉関係法規 p 90～	講義
13回	社会福祉関係法規 p 95～	講義
14回	その他関係法規	講義
15回	個人情報保護法	講義
16回	第1回～第4回 復習	講義
17回	第4回～第8回 復習	講義
18回	第8回～第12回 復習	講義
19回	第13回～第16回 復習	講義
20回	総まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道Ⅳ**3学年**

[基本情報]

担当教員	増地 克之		単位数	1	時間数	40
実務/資格	体育系大学で柔道コーチングを担当している教員が、認定実技審査に向けて柔道の基本動作や投の形を指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

柔道を通じて、精力善用、自他共栄の精神を身に付ける。柔道の礼儀作法、投げの型、受け身を学び、人に対する尊敬と謙虚さを身に付け、社会へ貢献する考え方を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形)

小俣幸嗣著 大泉書店

[履修の条件・留意点]

10月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	前方回転受身、投の形（始めの動作、終わりの動作、支釣込足）	実習
2回	投の形、支釣込足	実習
3回	投の形 釣込腰	実習
4回	投の形 釣込腰	実習
5回	投の形 払腰	実習
6回	投の形 払腰	実習
7回	投の形 浮落	実習
8回	投の形 浮落	実習
9回	投の形 背負投	実習
10回	投の形 背負投	実習
11回	投の形 浮腰	実習
12回	投の形 浮腰	実習
13回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定	実習
14回	投の形 送足払、約束乱取	実習
15回	投の形 送足払、約束乱取	実習
16回	投の形 内股、約束乱取	実習
17回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定	実習
18回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
19回	まとめ、解説	実習
20回	投の形 肩車	実習

[授業科目]

社会保障制度

3学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験をもつ柔道整復師が、社会保障制度と療養費の仕組みについて指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

社会保障制度について理解する。保健を扱う資格として、改正が行われる保障制度の最新の内容を理解し、適切に制度を利用できる知識を身に付ける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、指定する課題を行うことにより単位認定試験の受験を認める。
卒業試験での必修問題にて合格点を取得で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の復習をしっかりと行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
- ・パソコンやタブレット等の使用は許可を得ることで使用可能とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、社会保障の3つの機能、あるべき社会と今後の社会保障	講義
2回	公的年金の意義、公的年金制度の仕組み、介護保険の意義と仕組み、社会福祉・公的	講義
3回	医療保険の目的と意義	講義
4回	保険診療の概要	講義
5回	医療保険財政の現状と課題	講義
6回	診療報酬制度	講義
7回	療養費とは	講義
8回	柔道整復療養費	講義
9回	柔道整復療養費の推移	講義
10回	療養費の算定	講義
11回	療養費請求のケーススタディ①	講義
12回	療養費請求のケーススタディ②	講義
13回	療養費請求のケーススタディ③	講義
14回	総復習（社会保障制度、医療保険制度）	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道整復特論Ⅰ

3学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験、専門学校での指導経験のある教員が、上肢、下肢、体幹部の骨折について、臨床経験を交えながら、より深い知識を身に着けるよう指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の各骨折の特徴、基本的な治療方針などについて学び、医師との連携を考慮した能力を養う。機能解剖、画像読影（上肢、下肢、体幹）する能力を養う。

[評価方法]

模擬試験内の総論・骨折問題の得点全体を3割、最終日の確認試験を7割として総合判定により認定する。
--

[教科書]

[参考書]

「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院
---------------------------	-----------------------------

[履修の条件・留意点]

授業で必要な資料は配布するも教科書を復読する事。練習問題、過去の国家試験問題を実施し、理解度・要望に応じ変更の可能性あり。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	鎖骨肩甲骨骨折	講義
2回	上腕骨近位端骨折	講義
3回	上腕骨々幹部骨折	講義
4回	上腕骨顆上骨折	講義
5回	上腕骨遠位端骨折	講義
6回	前腕骨近位端骨折	講義
7回	前腕骨々幹部骨折	講義
8回	前腕骨遠位端骨折	講義
9回	手根骨骨折	講義
10回	中手骨・指骨骨折	講義
11回	頭蓋骨・脊椎骨折	講義
12回	骨盤骨骨折	講義
13回	大腿骨近位端骨折	講義
14回	大腿骨骨幹部骨折	講義
15回	大腿骨遠位端・膝蓋骨骨折	講義
16回	下腿骨近位端骨折	講義
17回	下腿骨々幹部骨折	講義
18回	足関節部骨折	講義
19回	足根骨・中足骨骨折	講義
20回	総まとめ、確認試験、解説	講義

2022年度 [分野] 専門 / 基礎柔道整復学

[授業科目]

柔道整復特論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験、専門学校での指導経験のある教員が、総論、骨折、脱臼、軟損全ての範囲を指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

1, 2年次に学んだ総論、骨折についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは総論と全骨折、軟部組織損傷を実際の画像を用いて学び、より臨床的な知識を深める。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業認定試験の受験は認めない。
卒業認定試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂

「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料を配布する。教科書を必ず持参する事。本講座の活用で春の栄冠をぜひ勝ち取ってください！
授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	骨折の分類、症状	講義
2回	骨折の合併症から予後まで、及び骨折全範囲復習	講義
3回	関節、軟部、神経損傷について、及び骨折全範囲復習	講義
4回	整復法、固定法について、及び骨折全範囲復習	講義
5回	後療法について、及び骨折全範囲復習	講義
6回	10月30日学内模試復習、解説	講義
7回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
8回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
9回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
10回	国試受験手続認定試験問題復習、解説	講義
11回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
12回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
13回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
14回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
15回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
16回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
17回	卒業試験問題復習、解説	講義
18回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
19回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
20回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義

2022年度 [分野] 専門 / 臨床柔道整復学

[授業科目]

画像評価学

3学年

[基本情報]

担当教員	林 泰京		単位数	2	時間数	30
実務/資格	骨関節、筋などの運動系疾患、外傷を大学で教授経験のある教員が、超音波診断機、レントゲン画像などの診方を伝え、適切に評価できる知識を身に着けるよう指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

種々の画像を読影できる能力を身に付ける。レントゲンやMRIなどの画像のみかたを学ぶ。また、柔道整復師が使用できる超音波観察装置の使用方法を理解し、施術の補助として活用できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

第15回目に筆記試験を実施します。100点満点で60点以上を合格点とします。

[教科書]

[参考書]

「施術の適応と医用画像の理解」 南江堂

骨・関節X線写真の撮り方見かた

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	医用画像の理解（X線写真 CT MRI 超音波）	講義
2回	国家試験の画像出題傾向の分析	講義
3回	肩関節の撮影法と評価 1	講義
4回	肩関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
5回	肘関節の撮影法と評価 1	講義
6回	肘関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
7回	手関節の撮影法と評価 1	講義
8回	手関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
9回	股関節の撮影法と評価	講義
10回	膝関節の撮影法と評価 1	講義
11回	膝関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
12回	足関節の撮影法と評価 1	講義
13回	足関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
14回	体幹の撮影法と評価、まとめ	講義
15回	まとめ、解説（単位試験）	講義

2022年度 [分野] 専門 / 柔道整復実技

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	森澤 隆弘	単位数	1	時間数	40
実務/資格	整形外科で臨床経験をつみ、整骨院を開業している柔道整復師の専任教員が、脱臼、軟部組織損傷に対する臨床的な技術を身につけるよう指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢、体幹の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢、体幹の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

前期末試験成績、学則に沿った出席、遅刻、早退日数と授業態度

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編、実技編

標準整形外科、解剖学

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	顎関節脱臼、顎関節症	参考プリント、板書	実習
2回	鎖骨脱臼(肩鎖関節、胸鎖関節)	参考プリント、板書	実習
3回	肩関節脱臼①	参考プリント、板書	実習
4回	肩関節脱臼②	参考プリント、板書	実習
5回	肩関節軟損①	参考プリント、板書	実習
6回	肩関節軟損②	参考プリント、板書	実習
7回	肘関節脱臼	参考プリント、板書	実習
8回	肘関節～前腕部軟損①	参考プリント、板書	実習
9回	肘関節～前腕部軟損② (神経麻痺)	参考プリント、板書	実習
10回	手関節～指関節脱臼①	参考プリント、板書	実習
11回	手関節～指関節脱臼②	参考プリント、板書	実習
12回	手関節～指関節軟損①	参考プリント、板書	実習
13回	手関節～指関節軟損②	参考プリント、板書	実習
14回	手関節～指関節軟損③	参考プリント、板書	実習
15回	前期総まとめ、予備日		実習
16回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復①		実習
17回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復②		実習
18回	腱板損傷、二頭筋長頭腱損傷診察、施術		実習
19回	大腿筋損傷、膝関節捻挫、腓腹筋損傷、足関節捻挫診察、施術		実習
20回	まとめ、解説		実習

2022年度 [分野] 専門 / 柔道整復実技

[授業科目]

柔整総合実技Ⅰ

3学年

[基本情報]

担当教員	①西尾 悠介②西田 朋美	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、骨折、脱臼、軟部組織損傷について、患者評価から整復、固定、検査法まで対応できるよう指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。特に認定実技審査項目を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。
 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編 改訂版第5.6版
 柔道整復学実技編 改訂第2版

[履修の条件・留意点]

受講時は必ず白衣を着用すること。

確実にできる・覚えるまで反復して学習する事。（1回やった＝確実にできる！ではない。）

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	必修問題出題要綱☑ / 肩腱板損傷・上腕二頭筋腱損傷	実技
2回	肩関節脱臼理論	実技
3回	肩鎖関節脱臼理論	実技
4回	肘関節脱臼理論・肘内障理論	実技
5回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実技
6回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実技
7回	大腿部損傷理論 / PIP関節背側脱臼理論	実技
8回	鎖骨骨折の整復と固定	実技
9回	下腿三頭筋損傷・アキレス腱断裂・足関節捻挫理論	実技
10回	上肢・下肢必修問題模擬試験（正答率8割以下は課題提出あり。）	実技
11回	上肢軟損実技①	実技
12回	下肢軟損実技①	実技
13回	下肢軟損実技②	実技
14回	上腕骨外科頸外転型骨折の整復	実技
15回	コーレス骨折の整復・固定	実技
16回	下肢軟損実技③	実技
17回	下肢軟損実技（固定／膝・足関節固定）	実技
18回	第5中手骨頸部骨折の固定、下腿骨骨幹部骨折の固定	実技
19回	下腿骨骨幹部骨折の固定、肋骨骨折の固定	実技
20回	総まとめ・解説	実技

[授業科目]

柔整総合実技Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	①増地 克之②西田 朋美③最上 忠	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、脱臼、骨折などの基礎的知識の復習から臨床的な応用まで深く指導し、また、柔道の基本的動作と型も併せて指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。柔道、認定実技審査項目の学習と、総論を理解した上での骨折脱臼の臨床的施術方法を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形)
小俣幸嗣著 大泉書店

[履修の条件・留意点]

10月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	投の形 内股、約束乱取	実習
2回	投の形 内股、約束乱取	実習
3回	投の形 肩車	実習
4回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
5回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
6回	プレ認定実技審査	実習
7回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
8回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
9回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
10回	まとめ、解説	実習
11回	肩鎖関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
12回	肩関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
13回	肘関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
14回	上腕骨外科頸骨折の理論と整復実技	実習
15回	橈骨遠位端部骨折の理論と整復実技	実習
16回	顎関節脱臼の理論と整復実技	実習
17回	上肢脱臼の総復習	実習
18回	下肢脱臼の総復習	実習
19回	上下肢の総復習	実習
20回	上下肢の総復習	実習

[授業科目]

柔整総合実技Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	森澤 隆弘		単位数	1	時間数	40
実務/資格	整形外科で臨床経験をつみ、整骨院を開業している柔道整復師の専任教員が、脱臼、軟部組織損傷に対する臨床的な知識を身につけるよう指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。関節や筋などの損傷を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

出席日数、後期期末試験(卒業試験)成績、授業態度

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編、実技編	標準整形外科、解剖学、包帯固定学
--------------	------------------

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	外傷性股関節脱臼、発育性脱臼①診察、施術	実習
2回	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼解説、施術	実習
3回	実技認定対策授業	実習
4回	膝関節捻挫（前十字靱帯、側腹靱帯、半月損傷）	実習
5回	膝関節捻挫（ランナー膝、ジャンパー膝、スポーツ障害、成長障害）	実習
6回	下腿部損傷（コンパートメント症候群、シンスプリント、疲労骨折鑑別）	実習
7回	下腿部損傷、アキレス腱断裂	実習
8回	足関節捻挫（距腿関節靱帯損傷、腓骨筋腱脱臼）	実習
9回	足関節捻挫（ショパール関節、リスフラン関節捻挫）、足部成長障害	実習
10回	足根管症候群、フットボーラーズアングル、外脛骨、三角骨障害）	実習
11回	足関節部～前足部脱臼（距腿関節）	実習
12回	足関節部～前足部脱臼（ショパール関節、リスフラン関節、足指関節）	実習
13回	体幹疾患①（脊椎部脱臼）	実習
14回	体幹疾患②（頸椎、胸椎、腰椎部疾患）	実習
15回	予備日（まとめ）	実習
16回	総復習練習①	実習
17回	総復習練習②	実習
18回	総復習練習③	実習
19回	総復習練習④	実習
20回	総復習練習⑤	実習

[授業科目]

臨床実習Ⅳ

3学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、整骨院で患者への施術を行い、実際の臨床現場での対応を身につけてもらう科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---		実習

[授業目標]

主訴に対し患部だけではなく、全身状態を観察し、
問診・視診・触診・検査法を手順よくこなえるようにする。
患者さんの痛みに寄り添えるような柔道整復師になれるように基本を1から学ぶ。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、最終評価と臨床実習振り返りシートの記入をもって判定する。
なお、例外を除いて、欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復理論・実技

[履修の条件・留意点]

付属整骨院にて実習を行うので、身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。下記の実施内容についても練習するので、事前に復習をしておくこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	肘関節後方脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
2回	肘内障に対する診察・整復・固定・後療法	実習
3回	肩鎖関節上方脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
4回	鎖骨骨折に対する診察・整復・固定・後療法に	実習
5回	コーレス骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
6回	肩関節前方脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
7回	大腿直筋に対する診察・固定・後療法	実習
8回	膝関節内側側副靱帯に対する診察・固定・後療法	実習
9回	膝関節内側半月板に対する診察・固定・後療法	実習
10回	膝関節前十字靱帯損傷に対する診察・固定・後療法	実習
11回	肋骨骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
12回	肩胛板損傷に対する診察・固定・検査法	実習
13回	第2指PIP関節背側脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
14回	上腕骨外科頸外転型骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
15回	ハムストリングス損傷に対する診察・固定・後療法	実習
16回	上腕骨骨幹部骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
17回	下腿三頭筋損傷に対する診察・固定・後療法	実習
18回	アキレス腱断裂に対する診察・整復・固定・後療法	実習
19回	足関節捻挫に対する診察・整復・固定・後療法	実習
20回	上腕二頭筋腱損傷に対する診察・固定・後療法	実習
21回	下腿両骨骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
22回	月状骨掌側脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
23回	第5中手骨頸部骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習